八戸市中央卸売市場 青果部 取扱高実績

資料２

１．取扱高

期　間　：　令和3年1月 から 12月まで（開市日数　254日）
数　量　：　106,230　t　（前 年 比　99.6% ）
金　額　：　22,239,998　千円　（前 年 比　97.4% ）

２．月別取扱高

上段：数量（t）と前年比　下段：金額（千円）と前年比

区　分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合　計	前年取扱高
野　菜	4,241	6,161	6,983	6,108	6,182	7,665	10,052	7,453	9,032	10,459	10,402	7,425	92,163	92,538
	87.7%	102.5%	97.9%	100.9%	107.1%	97.3%	101.1%	99.0%	109.5%	91.8%	102.0%	98.5%	99.6%	
	1,301,078	1,807,849	1,630,571	1,432,592	1,313,334	1,364,071	1,453,874	1,351,242	1,759,591	1,565,456	1,586,727	1,525,495	18,091,880	18,462,638
	132.6%	161.0%	118.9%	101.3%	102.7%	95.4%	64.2%	78.3%	116.7%	77.5%	90.9%	95.3%	98.0%	
果　実	979	1,334	1,165	966	820	761	1,100	1,159	1,002	1,155	1,530	1,678	13,649	13,699
	99.0%	108.9%	115.6%	100.3%	122.2%	109.5%	98.7%	79.6%	99.4%	88.7%	91.6%	105.1%	99.6%	
	226,820	307,909	334,110	271,127	262,965	276,908	386,622	381,013	277,381	290,906	427,914	500,398	3,944,073	4,167,344
	83.1%	93.4%	100.7%	77.3%	93.1%	96.0%	92.5%	80.9%	89.6%	94.5%	111.7%	118.6%	94.6%	
その他（野菜・果実加工品、鳥卵、その他）	38	41	44	27	51	25	27	24	21	38	37	45	418	458
	100.5%	101.9%	101.5%	74.7%	109.2%	78.6%	91.6%	87.4%	82.1%	114.6%	81.8%	74.4%	91.3%	
	17,842	21,584	22,654	11,523	19,773	10,548	13,185	13,671	11,440	14,338	17,446	30,041	204,045	206,775
	92.6%	89.8%	102.5%	99.7%	123.4%	93.1%	109.3%	115.1%	98.4%	92.2%	96.2%	90.5%	98.7%	
合　計	5,258	7,536	8,192	7,101	7,053	8,451	11,179	8,636	10,055	11,652	11,969	9,148	106,230	106,695
	89.7%	103.5%	100.1%	100.7%	108.7%	98.2%	100.8%	95.8%	108.3%	91.6%	100.4%	99.5%	99.6%	
	1,545,740	2,137,342	1,987,335	1,715,242	1,596,072	1,651,527	1,853,681	1,745,926	2,048,412	1,870,700	2,032,087	2,055,934	22,239,998	22,836,757
	121.4%	144.8%	115.2%	96.6%	101.2%	95.5%	68.8%	79.0%	112.0%	79.9%	94.6%	100.0%	97.4%	

３．入荷及び価格の状況

〔野　菜〕　１月は、断続的な強い寒波の影響から、全国的に低温と干ばつ傾向が続いたため生育が緩慢となり、野菜全体の入荷量としては昨年を下回った。このため、馬鈴薯や長いも、にんにくは引き合いが強くなり、高値が続いた。２月は、強い寒気の影響が一部であったものの、全国的に平年より気温が高い傾向となったことから、人参は前進出荷で荷動き良く、価格も安定した。また、ごぼうやにんにく・ねぎは依然引き合い強く、高値が続いた。３月になると、全国的な気温の上昇と適度な降雨のため、白菜・キャベツなどの葉茎菜類を中心に生育順調な品目が多くなり潤沢な入荷が続いたことから、入荷量増に伴う安値で推移した。一方、ごぼうやにんにく・馬鈴薯は前月に引き続き引き合い強く、高値が続いた。４月も３月と同様に、生育順調で潤沢な入荷が続いたことから、野菜全体として「数量増の安値」となった一方で、ごぼうとにんにくを中心とする県産特産品は相変わらず引き合いが強く「数量少の高値」となり、二極化傾向がより顕著となった。５月は、気候が良く、多くの品目で生育順調となったことから潤沢な入荷と前進傾向となり、軟調な相場が展開された。６月は、平年よりやや遅い梅雨入りとなったものの、日照時間は多く、平均気温も上がってきたことから生育が順調に進み、根菜類や果菜類では数量・単価とも前年並みとなった。前進傾向であったトマトは、６月下旬には品薄となったため高値が続いた。７月は、猛暑とコロナ禍に加え、東京五輪の無観客開催などの影響から、業務・加工分野の荷動きの鈍化は著しく、非常に厳しい販売となった。しかし、このような状況にあっても県内産のにんにくは依然引き合いが強く、昨年よりも１～２割程度の単価高で取引がなされた。８月上旬は好天が続き、全国各産地とも入荷順調で安値基調が続いたが、中旬から下旬にかけ、寒気の影響から日照不足や低温が続くなど環境が一変し、きゅうり・なす・トマトなどの果菜類、レタスなどの洋菜類、ほうれん草などの葉物を中心に入荷量が減少したことで相場が高騰した。にんにくは、中国産の輸入減と新型コロナウイルスへの免疫効果の期待から、依然として引き合いは強く、本年中、高値が続いた。１１月、県産ごぼうは、3L・2Lの大物中心の入荷で加工用の引き合いが弱い。長いもは、土付きの入荷が始まったが、下等級品の比率が高く平年より単価安であった。野菜全体としては、１１月の平均単価は153円となり、過去５年間で最も安い値、厳しい月となった。

〔果　実〕　１月は、りんごの入荷が始まったものの、供給過剰のため前年比の３割程度の単価安でスタートした。いちご・バナナ・輸入果実の入荷量は例年並みであったが、コロナ禍のためイベントの中止が相次ぎ、低調な荷動きとなった。２月から３月にかけては、りんごの安値が続いた一方、みかんは外気温が低かったこともあり荷動きが良く、堅調な販売となった。いちごは端境の影響により県内外産ともに入荷量が少ないため活発な荷動きがみられ、バナナも気温上昇に伴い、荷動きが徐々によくなっていった。４月は、いちごの旬を迎え入荷量は増えてきたものの、思いの外、価格は伸び悩み、国産果実全体としてもそれほどの荷動きはみられなかった。６月は県内産さくらんぼの旬であるが、霜害の影響から昨年より１割程度少ない入荷量となり、高値で取引された。千葉県産の主力であるすいかも徐々に出始めたが、まだまだ外気温に左右される荷動きであった。７月になると、国産果実は全国各産地とも前進出荷となった結果、出荷ピークが需要期から外れてしまい、全体的に厳しい荷動き、単価となったが、８月になると、前月からの前進出荷が需要期と合致し、数量減の高値が続いた。９月、バナナは、国産果実の潤沢な出回りにより、例年に比べ厳しい販売を強いられた。１１月、いちごは温暖の影響で前進出荷となり、入荷量が多く安値での取引が続いた。一方、県産りんごは、入荷量は前年の２割減となり、贈答用の引き合いが強いものの、上物が少なく強保合。みかんは、前年並みの入荷量であったが消費末端の動きが鈍かった。しかし、果実全体としては、１１月の平均単価は280円となり、過去５年間で最も高い値となった。

八戸市中央卸売市場 花き部 取扱高実績

資料２

１．取扱高

期　間　：　令和3年1月 から 12月まで（開市日数　253日）
数　量　：　12,374　千本　（前 年 比　101.5% ）
金　額　：　1,102,877　千円　（前 年 比　106.2% ）

２．月別取扱高

上段：数量（千本・千鉢・千個）と前年比　下段：金額（千円）と前年比

区　分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合　計	前年取扱高
切　花	571	717	1,572	833	872	752	802	1,359	1,092	669	746	1,251	11,236	11,106
	85.3%	94.6%	104.1%	112.3%	113.6%	93.4%	92.3%	100.4%	103.4%	96.8%	105.2%	106.5%	101.2%	
	43,382	52,125	136,699	63,088	63,910	60,838	62,096	118,745	97,162	60,876	70,798	119,068	948,787	906,194
	68.5%	83.3%	120.2%	139.6%	120.7%	103.9%	88.6%	102.5%	102.0%	94.7%	112.4%	117.4%	104.7%	
鉢　物	7	9	13	18	12	10	8	3	5	10	9	8	112	115
	89.9%	89.6%	107.4%	126.7%	86.5%	105.6%	139.1%	132.1%	68.0%	76.8%	93.2%	82.4%	97.4%	
	2,986	3,987	6,388	9,750	7,067	5,194	5,183	2,409	3,147	4,968	6,164	5,833	63,076	53,557
	109.0%	114.2%	137.4%	164.8%	117.4%	136.5%	132.4%	152.2%	82.1%	83.4%	109.7%	96.8%	117.8%	
その他	28	110	77	137	171	113	43	29	39	57	65	157	1,026	972
（枝物、観葉植物、苗物、植木、加工品、その他）	90.2%	91.1%	121.5%	122.2%	110.3%	99.6%	84.0%	112.0%	79.0%	98.1%	144.5%	106.7%	105.6%	
	2,118	5,182	5,531	15,845	14,287	9,941	4,793	2,872	4,053	5,927	5,776	14,689	91,014	79,109
	84.5%	93.6%	141.8%	165.1%	118.9%	104.5%	94.6%	138.6%	97.0%	86.8%	134.5%	108.0%	115.0%	
合　計	606	836	1,662	988	1,055	875	853	1,391	1,136	736	820	1,416	12,374	12,193
	85.6%	94.1%	104.8%	113.8%	112.7%	94.3%	92.2%	100.6%	102.1%	96.6%	107.2%	106.4%	101.5%	
	48,486	61,294	148,618	88,683	85,264	75,973	72,072	124,026	104,362	71,771	82,738	139,590	1,102,877	1,038,860
	70.7%	85.6%	121.5%	146.1%	120.1%	105.7%	91.2%	103.8%	101.0%	93.2%	113.5%	115.3%	106.2%	

３．入荷及び価格の状況

〔切　花〕　１月は、青果同様、断続的な強い寒波の影響から全国的な供給量は少なかったが、需要も低かったため安値で推移した。バレンタインや桃の節句などの時期になると、イベント用の花の需要が伸び、昨春動きがみられなかった分より活気が感じられ、コロナ禍以降初めて引き合いの強い時期となった。この状況は全国的なもので、特に関東を中心に品薄、高値傾向となり、出荷産地が東北に移行する初夏までは続くと予想された。４月は、コロナ禍の影響で例年に比べ入荷量は少なく、また、中旬以降には輸入品の入荷も減少したため、中値、高値が続いた。５月、切花は、コロナ禍での様々な制限の影響を受け動きは鈍かった。一方、カーネーションは、昨年から5月が「母の月」とされたこともあり需要が高まり、初旬こそ手頃な価格で取引されたものの、中旬以降はコロンビア産の入荷量減を国内産で供給したこともあり高値が続いた。６月から7月中旬にかけては、切花全体として入荷量は少なく、また、例年に比べ業務需要が少なかったことで、中値、高値が続き、価格は安定はしていた。しかし、７月下旬になると好天が続き、開花が早まったため、荷動きは良くなったが、安値での取引が多くなった。８月は、東北で生産された切花を中心に平年並みの販売実績となったが、コロナ禍の影響から荷動きが良いとは言えない状況であった。９月は好天が続いたため、市近郊から菊類・トルコキキョウ・リンドウ・アスターなどが多彩に入荷され、秋彼岸需要もあり荷動き、単価は良かったが、彼岸以降は落ち着き、やや安値基調が続いた。１０月になると、コロナ禍の影響にも落ち着きが見え始めてきた。切花は、国内の主産地が南へ移行したこと、また、長期にわたる需要の減、燃料費の高騰が重なり、流通量は少なかった。一輪菊は、葬儀需要が少なく、まだまだ動きが鈍い状況であり、スプレー菊は、徐々に動きは出てきたが価格は伸び悩んだ。カーネーションは、栃木県産の今期出荷が始まり、引き合い強く、やや高値での取引が続いた。１１月、切花は、全国的に流通本数はまだまだ回復しておらず品薄気味であったため、やや高値の取引であった。スプレー菊は、コロナ禍の影響から輸入品が減り入荷量が不安定となったため、国産品が高値で取引された。カーネーションは、前月同様、栃木県産が多く入荷され、引き合い良く、やや高値で取引された。

〔鉢　物〕　１月は、切花同様、断続的な強い寒波の影響から荷動きが鈍く、全体的に安値は続いた。２月になると、胡蝶蘭の引き合いが強くなり、取扱数量・金額ともに安定した取引が続いた。３月は、平年並みの荷動きとなり、特に鉢物では、入荷量・単価ともに安定した取引が続いた。４月は「コロナ禍の巣ごもり需要」、５月は「母の月需要」のため需要が高まり、鉢物全体の荷動きも良く高値が続いた。６月から7月にかけて、胡蝶蘭の入荷量と需要のバランスが安定しており、単価も平均並みでの推移としたが、８月は、胡蝶蘭の動きはあったものの、気候の影響を受け、品質は安定しなかった。しかし、９月になると徐々に回復し始め、中大輪の胡蝶蘭が数量・価格ともに順調に推移した。１０月、鉢物では、選挙用やイベント用として胡蝶蘭の引き合いが良かった。その他、シクラメンやポインセチアの出荷も始まったが、引き合いはまだまだ強くはなかった。１１月は、シクラメンやシンビジュームの取引が多くなった。また、暖冬の影響でポインセチアや葉牡丹の生育が進み、出荷のピークを迎えた。